

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【馬宮東小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語では、漢字や言葉の使い方を確実なものとしていくことや、文章を読み取ることが課題である。そこで、引き続き漢字や言葉の学習を日々の授業の中で繰り返し学習していくことや、読書の推進策を実施していく。 算数では、正しい四則計算の仕方や図形の特徴などの基礎的基本的なことを確実に身に付けていくことが課題である。そこで、タブレットや朝の活動を活用し、既習事項を短時間で反復学習する機会を繰り返し確保していくことに取り組んでいく。
思考・判断・表現	国語では、説明する力を今後も伸ばしていくことが課題である。そのためには表現の基盤となる言語に関する知識・技能の定着をさらに図り、ペアやグループでの説明活動や、各教科における課題解決に向けた話し合い活動に、継続的に取り組んでいくようにする。 算数では、四則計算の技能を活用して解く問題に課題があることから、四則計算の技能の確実な習得を図るとともに、他者への説明活動や、グループでの学びあいに継続的に取り組み、理解を深めるとともに思考力の向上を図っていく。
主体的に学習に取り組む態度	問題に粘り強く取り組む態度は向上してきているので、課題に対して進んで解決しようとする態度を更に育てていくことが課題である。そのために、国語、社会、算数、理科において、授業において課題を明確にし、話し合い活動を通して友達の考え方にも触れながら、課題を解決した実感を味わえるような授業を継続的に行うようにしていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語と算数の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果の同集団経年比較より向上させる。	⇒ 計算ドリルや漢字ドリル、「ドリルパーク」、「スタディサプリ」を活用し、漢字や基本的な計算に繰り返し取り組むようにする。また、小テストなどを利用して、自分ができることとできないことを明確にし、未定着な学習を補充学習できるようにする。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」の平均無解答率を、R4年度の自校の結果の同集団経年比較で1割下げる。	⇒ 国語では、読むことに親しんでいくように、よかったと思う本の紹介や読書時間を確保するなど読書を推進する。 算数では、既習事項を活用した問題の解き方を普段から学んだり、問題文に書かれていることを図で表したりして、考えて表現する力を伸ばしていく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目(5・6年)において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 児童の粘り強い学習への取組を日常的に称賛していく。また、「教えて考えさせる授業」と「問題解決的学習」を効果的に実践し、分かりやすい授業を実現することで、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。

＜小6・中3＞(4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	国語、算数ともに、同集団経年比較において、各学年の全体としては、ほぼ同じかわずかに上回っている。しかしながら、算数の四則計算について、前学年より下がってしまった学年がある。	B
思考・判断・表現	同集団経年比較において、R4に比べて無解答率が同率のものとなったものがあつたが、それ以外の学年、教科では目標を上回って無解答率が改善された。	B
主体的に学習に取り組む態度	高学年の、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、目標90%に対して、5年生は85.7%、6年生は78.1%が肯定的な回答をしている。6年生は、昨年度90.4%であった。知識・技能の習得以上に課題解決への意欲を高めていくことが課題である。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	成果(○)と課題(△) 国語:○原因と結果など、情報と情報との関係の理解は、正答率で全国・県平均を上回っており、説明文の基本的な読み取りはできている。 △文章中の語句を漢字に直す設問の正答率は全国・県平均とほとんど変わらないが、無解答率が高い。 △日常使われる敬語の理解については、正答率、無解答率ともに全国・県平均を下回っており、正しい理解に課題が見られる。 算数:○基礎的な四則計算は、全国・県平均と同等の理解ができている。 △図形に関する基礎的な知識の定着に課題が見られる。 △二次元表やグラフの読み取りに課題が見られる。
思考・判断・表現	成果(○)と課題(△) 国語:○話し手と聞き手の会話から内容を読み取ったり、聞き手の質問の意図を、話し手が伝えたいことから考えたりすることは概ねできている。 △文章と表を結び付けて必要な情報を見付けたり、図表やグラフなどを用いて考えを表現することに課題が見られる。 算数:○基礎的な数量の変化の仕方について考えることは、全国・県平均と同等の思考ができている。 △与えられた情報を基にし、それらを活用して問題を解決することに課題が見られる。 △問題文に示された状況を式に表したり、その状況から、どのようにすると問題が解決できるのかを考えたりすることに課題が見られる。
主体的に学習に取り組む態度	質問紙では、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った」全国平均より15ポイント程高く、前向きに学習に取り組んでいる。また、「自分にはよいところがある」「人が困っているときは進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」は全国平均より20ポイント近く高いことから、自己肯定感が高く、前向きに生活している様子がうかがえる。「先生はよいところを認めてくれる」とした回答は全国・県平均を大きく上回ることも要因の一つと考える。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	成果(○)と課題(△) 国語○「書くこと」「話すこと・聞くこと」では、市平均正答率を上回り、理解ができている。 △「読むこと」では、無解答率は市平均より低く、問題に進んで取り組んでいるが、苦手としている児童も多い。 算数○全体的には市の平均正答率とほぼ同等であり、「測定」の領域では、市平均正答率を上回って理解できている。 △「数と計算」「図形」の領域は他の領域に比べて苦手としている傾向がある。	小4	成果(○)と課題(△) 国語○全体の正答率は市平均を上回っており、基礎・基本が定着してきている。 ○「読むこと」の領域の平均正答率は、市平均を3pt以上上回っており、中心となる語句や文を捉えて読む力がついてきている。 △書写(毛筆)に関する知識・技能に課題があり、今後高めていく。 算数○「単位の関係についての理解」は、大きく市平均正答率を上回っている。 △全体的に無解答率が市平均より高く、途中であきらめてしまう様子が見られる。
小5	成果(○)と課題(△) 国語○無解答率はほぼ全領域で0%の問題が多く、粘り強く取り組む態度が身に付いている。 △「話すこと・聞くこと」の正答率は市平均とほぼ同等であるが、他の領域は底上げが課題である。 算数○算数においても全体的に無解答率は低く、教科によらず頑張る態度が見られている。 △「割合」に関する問題を苦手としている児童が多い。	小6	成果(○)と課題(△) 国語○全体的に無解答率が0%の問題が多く、何らかの答えを導き出そうという態度が身に付いている。 △全体的に市平均正答率より低く、更なる基礎・基本の定着に課題がある。 算数○算数でも「数と計算」の領域ではすべての問題で無解答率が0%となっており、問題に頑張って取り組む態度が養われている。 △「変化と関係」「データ活用」の領域については、より理解を深めていく必要がある。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	目標変更なし	⇒ チャレンジタイムや宿題を活用し、計算ドリルや漢字ドリル、「ドリルパーク」、「スタディサプリ」を使って、既習事項に繰り返し取り組むようにする。また、以前学習した内容についても、演習を通して繰り返し学習に取り組むようにする。
思考・判断・表現	目標変更なし	⇒ 国語では、読むことに親しみ、読書の習慣をつけていくことで、書かれていることの内容理解を深めていく。そのために、朝読書や図書室の時間を有効活用して、読書時間を確保していく。 算数では、授業活動の中に問題文に書かれていることを絵や図で表す活動を取り入れ、問題文の内容を正しく捉えられるようにするとともに、問題解決に向けて、考えて表現する力を伸ばしていく。
主体的に学習に取り組む態度	目標変更なし	⇒ 変更なし